

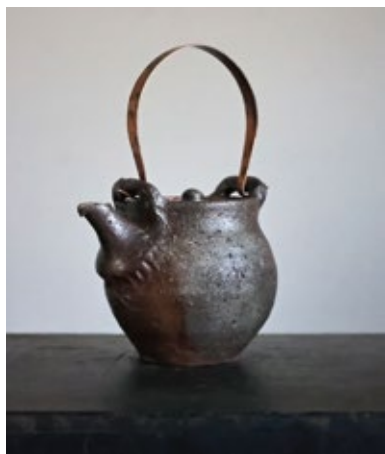


水谷 渉展 変な人

2025年1月25日(土)～2月1日(土)

作家在廊日 1月25日

料金後納 ゆうメール
---------------



## 水谷 涉展 変な人

2025年1月25日(土) - 2月1日(土)

作家在廊日 1/25

営業時間 11時～18時 最終日は17時迄

ギャラリーうつわノート 埼玉県川越市小仙波町1-7-6



地図はこちら

1975年 愛知県に生まれる  
1990年 陶芸を始める  
1994年 唐津で修行  
1996年 蟹江良二氏に師事  
2000年 岐阜県飛騨高山に築窯  
2011年 島根県松江市に移住  
2016年 唐津にて作陶を始める

キャリアが長い作家さんを掴まえてこういうタイトルも何ですが、水谷涉さんを知っている方なら意外と分かってもらえるんじゃないか  
と思います。原土、薪窯を基本に据えたまま、迎合することなく、ご自身の身体感覚のまま作り続けてきた。ぶれないというか、  
変わる気がなかったというか、いや、あんまり考えていなかったのか。暮らしブームも一段落し、あらためて焼き物の本質を見つめ  
直そうとする陶芸家が増えています。時代がぐるっと一周して、ようやく水谷さんのやってきたことに追いついたように思います。  
強いて言うなら水谷さんはピーター・ヴォーコスや鯉江良二の系譜にある前衛陶の作家と言えますが、しかし自由造形ながら用途という  
枠に踏みとどまろうとする態度は水谷涉という作家の軸でもあるのです。アート然と振る舞う陶芸ではなく、むしろ日本の焼き物史の  
傍流にあたるサブカルな立ち位置に思え、漫画で言うならガロ系と重なり、決して表舞台を歩かず、アングラな内面を秘めた意識を  
感じます。しかし、それこそ雑草文化から自生してきた日本独自のオリジナリティであり、西洋美術史とは隔絶した精神構造を有して  
いるのです。愛知県春日井市 1975 年生まれ。ご両親ともに陶芸家であったこともあり、中学生の時から陶芸には携わり、高校時代  
には家業も手伝っていたそうです。19 歳に唐津に渡り野村淳二さんと中川自然坊さんのもとで修業、21 歳には常滑の奇才・鯉江良二  
さんのところへ通いました。2000 年 25 歳で岐阜県飛騨高山に薪窯を作り独立し作家活動のスタート、2011 年には島根県松江市へ  
移住し 5 年間の作陶、そして 2016 年に再び唐津に戻ってきました。現在は唐津の陶土業の仕事を引き継ぎ、作陶と共に粘土の販売も  
行っています。豊富な経験と技術に裏打ちされた生粋の陶芸家人生に見えますが、いわば正統派焼き物の流れとは一線を画す茶陶とも  
言えない、うつわ作家とも限定できない、唐津焼でもない、土から滲み出るような焼き物が軸にあり、枠にはめようとしても納まり  
きららない異端児ゆえの変なところが水谷さんの魅力なのです。人は自分に似た人に共感を抱く一方で、自分にはない奇想天外な人物  
にも憧れを持つものでしょう。さてこの「変な人」の作る焼き物に触れて頂ければ幸いです。

店主